

KATO

HYBRID ROUGHTER

SR-250 HV

加藤製作所 ハイブリッドラフター
レスキュー時の取り扱い



加藤製作所 ハイブリッドラフター 2025 年 7 月～

はじめに

本書は、加藤製作所ハイブリッドラフターの乗員をレスキューする際の注意事項を記載しています。

ハイブリッドシステムの不適切な取り扱いは、感電などによるレスキュー作業者の重大な傷害の原因となるおそれがありますので、安全に作業をしていただくために、本書をよくお読みいただき、注意事項を遵守してください。

株式会社 加藤製作所

1. 安全の基本	1
2. 機体外観	2
3. 高電圧系部品と配線	3
4. レスキュー時の取り扱いポイント	4
1. 機体の安定	4
2. 補機類の事前処置	5
3. レスキュー作業へのフローチャート	6
4. ハイブリッドシステムの停止	7
5. 乗員の救出	12
■ 機体の安定	12
■ 乗員へのアクセス	12
⇒ ガラスの破砕	12
⇒ ハンドルおよびシートの位置調整	12
⇒ ヘッドレストの取り外し	13
⇒ 機体切断時の注意事項	13
6. 火災への対応	14
7. 水没時の対応	14
8. 液漏れへの対応	15
5. 事故機の運搬要領	16
1. けん引による移動	16
2. けん引専用車（レッカー車）による移動	21
6. 機体運搬時の注意	23

1. 安全の基本

加藤製作所ハイブリッドラフターは、288V以上の高電圧システムを使用していますので、取り扱いを誤ると、感電など重大な傷害を受けるおそれがあります。安全に作業するための基本は、高電圧の「隔離」と「遮断」です。

■ 高電圧の隔離

ハイブリッド機は、あらかじめ下記の「隔離」処置をしています。

- ・ 高電圧回路は、車体と絶縁しています。
- ・ 高電圧機器・配線には、ケース・カバーなどが装着されています。また、高電圧ケーブルは被覆をオレンジ色で統一しています。
- ・ 高電圧機器のケースと機器内高電圧導電部は絶縁しています。

■ 高電圧の遮断

- ・ 機体の整備や事故（エンジンストップしている場合）などで高電圧系の絶縁が確保できない状況では、HV※バッテリーからの電流を自動的に遮断するシステムを備えています。ただし、いかなる場合でも自動的に電流が遮断されるとは限りませんので、必ず本書に記載の作業を行う必要があります。

※ HV：ハイブリッド ビークル（Hybrid Vehicle）の略

<遮断モード>

遮断装置 状況	手動	自動
	サービスプラグ	スタータースイッチ連動
通常使用		○
点検・整備	○	○
衝突時・転倒時	高電圧が遮断されませんので、本書に基づきレスキュー時の取り扱いを行ってください。	

■ レスキュー時の注意

取り扱いを誤ると、感電など重大な傷害を受け、最悪の場合死に至る場合がありますので、十分注意してください。

① 当該機では、288V以上の高電圧システムを使用しています。

危険

- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品に触れないでください。
- やむを得ず触れる場合または触れる恐れのあるときは、必ず絶縁手袋を着用してください。
- ハイブリッド車を扱う作業者は労働安全衛生法第59条ならびに労働安全規定36条により特別教育の受講が義務付けられています。

② 駆動用電池（HVバッテリー）の電解液に強アルカリ性（pH13.5）の水酸化カリウム水溶液を用いています。

危険

- 電解液は無色透明・無臭、粘度は水と同程度で、蒸発すると刺激臭があります。やむを得ず触れる場合は必ずゴム手袋、保護メガネを着用して作業をおこなってください。

なお、電解液は不織布に染み込ませてあるため、万一HVバッテリーが破損しても多量に流出する恐れはありません。

〔注記〕 事故処理後の機体保管等で関係者が機体から離れるようなケースでは、周囲の人に注意を喚起するため、「高電圧作業中・触るな」の標示をおこなってください。（本書24ページをコピーして活用してください。）

2. 機体外観

下記に加藤製作所ハイブリッドラフターの特徴を示します。一つでも該当するものがあれば、本書を参考にして作業を実施してください。

ハイブリッドラフター銘板①

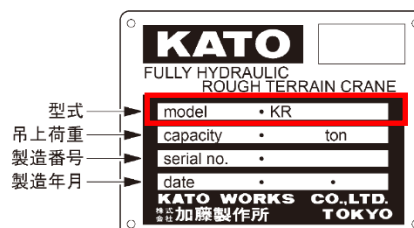
[右]



[左]



製造銘板の型式が
「KR-25H-F2HV」



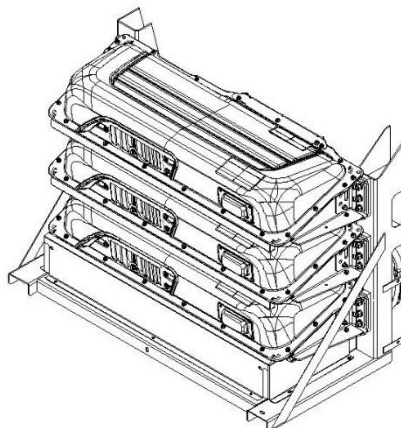
ハイブリッドラフター銘板②



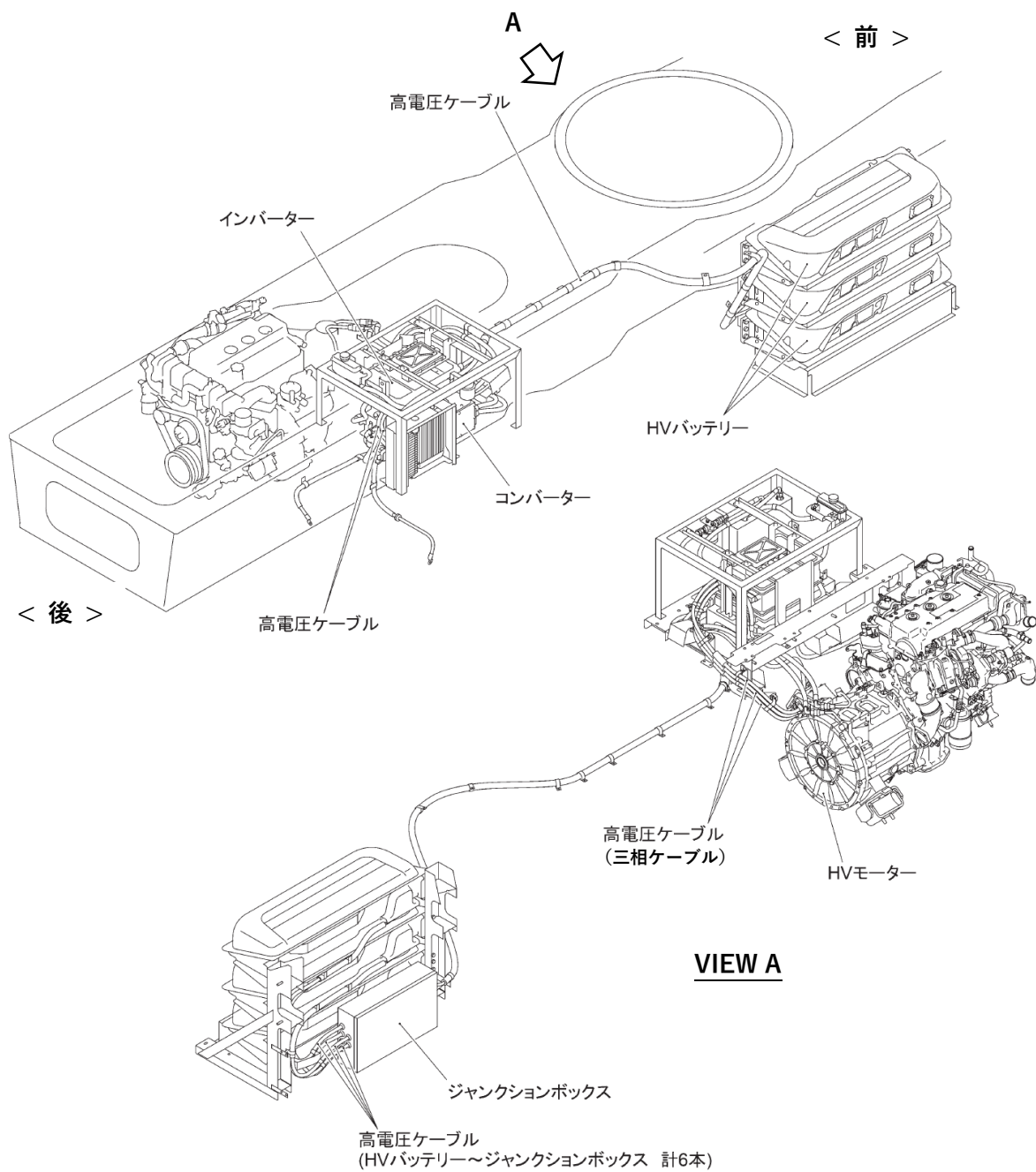
機種銘板



ステップ越しにHVバッテリーが
3個縦に並んでいる



3. 高電圧系部品と配線



4. レスキュー時の取り扱いポイント

危険

- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品に触れないでください。
- やむを得ず触れる場合または触れる恐れのあるときは、必ず絶縁手袋を着用してください。

警告

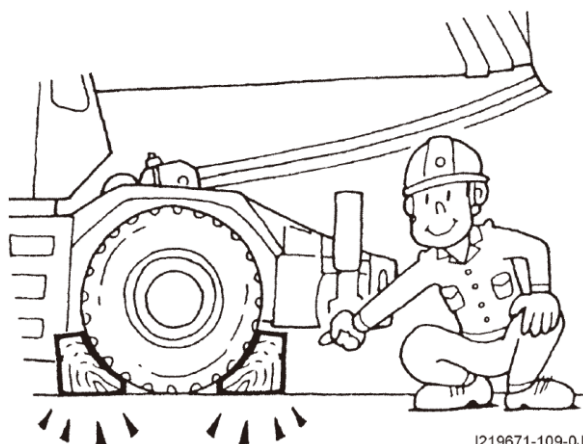
- 本機を運転・操作するときには下記の資格が必要です。
資格を有せずに運転・操作することはできません。
- ・公道走行 大型特殊自動車運転免許
- ・クレーン操作 移動式クレーン運転士免許

1. 機体の安定

トラブルが発生した時の機体の姿勢により行う作業が違います。

■ 走行姿勢時

機体が停止していることを確認してから、タイヤの前後に輪止めをしてください。



■ 転倒時

- ・ 一回機体を起こす必要があるときには高電圧装置に損傷や衝撃を与えない様に実施してください。
- ・ 転倒したままレスキュー作業を行う場合には転倒した機体がレスキュー作業中に傾く、旋回する等、動くことの無い様に可能な限りの固定作業を実施してください。



- 機体を固定する際、オレンジ色の高電圧ケーブル、排気システム、燃料システムを避けてください。

- ・ 転倒状況によっては高所にて高電圧遮断作業や救出作業を実施する可能性もあります。状況に応じて脚立等の高い足場や、高所作業車を用意してください

2. 事前処置

必要に応じて、ドアガラス開放、ドアロック解除などの操作を行ってください。

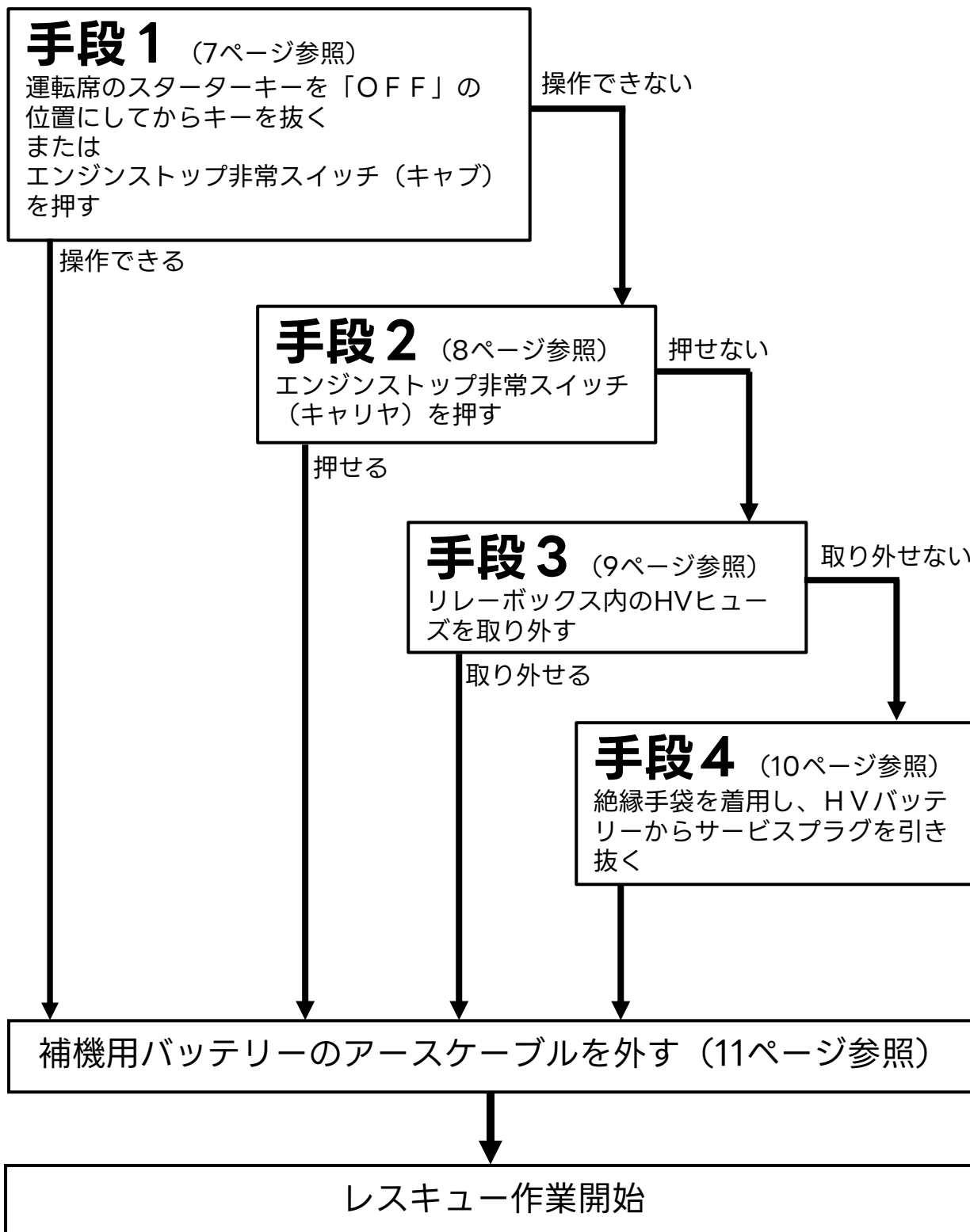


- 補機用バッテリーを切り離すと、ドアガラス開放操作ができなくなります。

3. レスキュー作業へのフローチャート

下記フローチャートにしたがって高電圧を遮断します。

機体を安定させる。(4・5ページ参照)



4. ハイブリッドシステムの停止

以下の4通りの手段のいずれかを行い、ハイブリッドシステムを停止してHVバッテリー、燃料ポンプの作動を停止させてください。

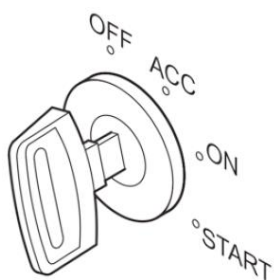
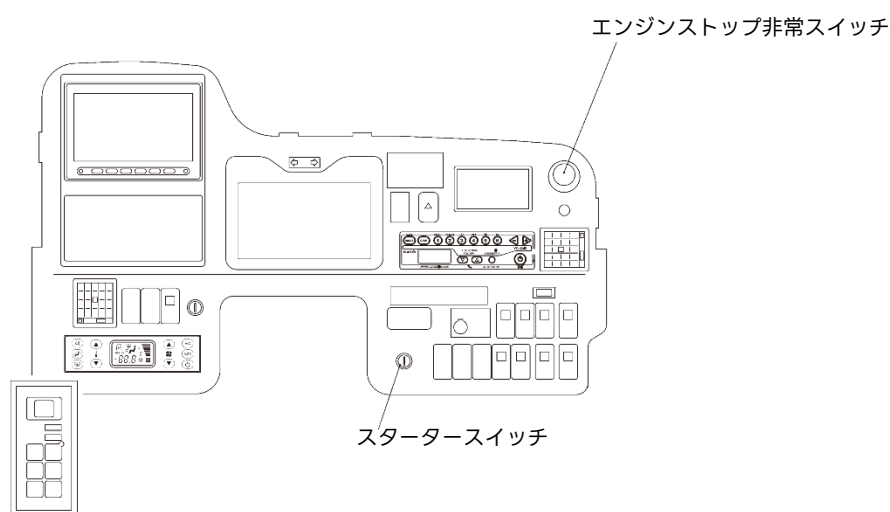
⚠ 危険

- エンジンが停止していても、ハイブリッドシステムが停止状態であると判断しないでください。
- レスキューを実施する前にハイブリッドシステムが停止状態になっていないと、高電圧システムによる重度の火傷および感電により、重大な傷害につながり、最悪の場合、死亡に至る可能性があります。

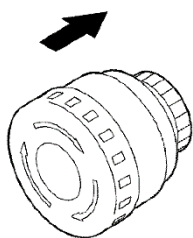
■ フローチャート詳細説明

手段1

(スタータースイッチが操作可能またはエンジントップ非常スイッチが操作可能な場合)



1. スタータースイッチを「OFF」の位置に回し、スターターキーを抜く。



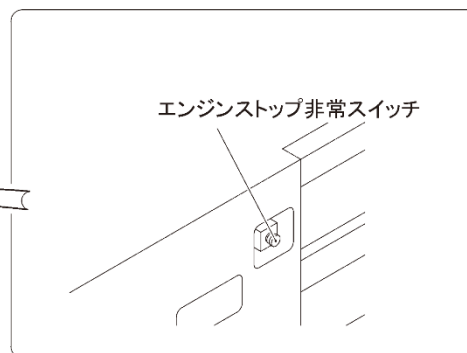
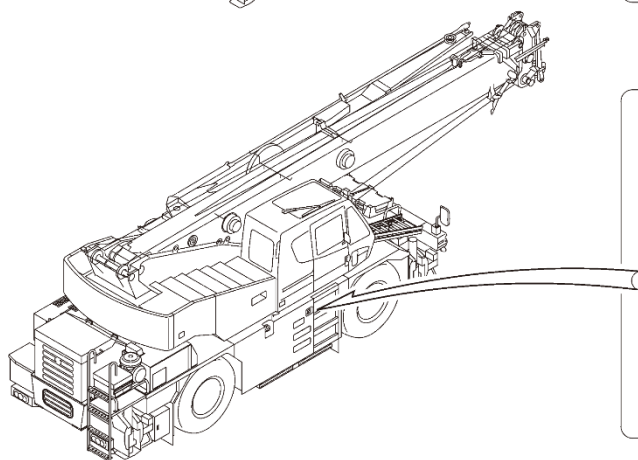
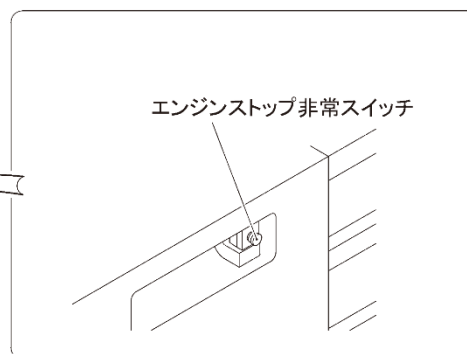
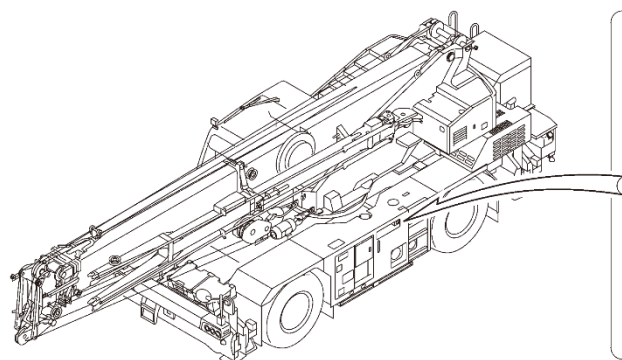
または、エンジントップ非常スイッチを押す。

2. 補機用バッテリーのアースケーブルを取り外す（11ページ参照）。

手段 2

(車内の処置ができない場合)

1. キャリヤの右側面、または左側面にあるエンジントップ非常スイッチを押す。



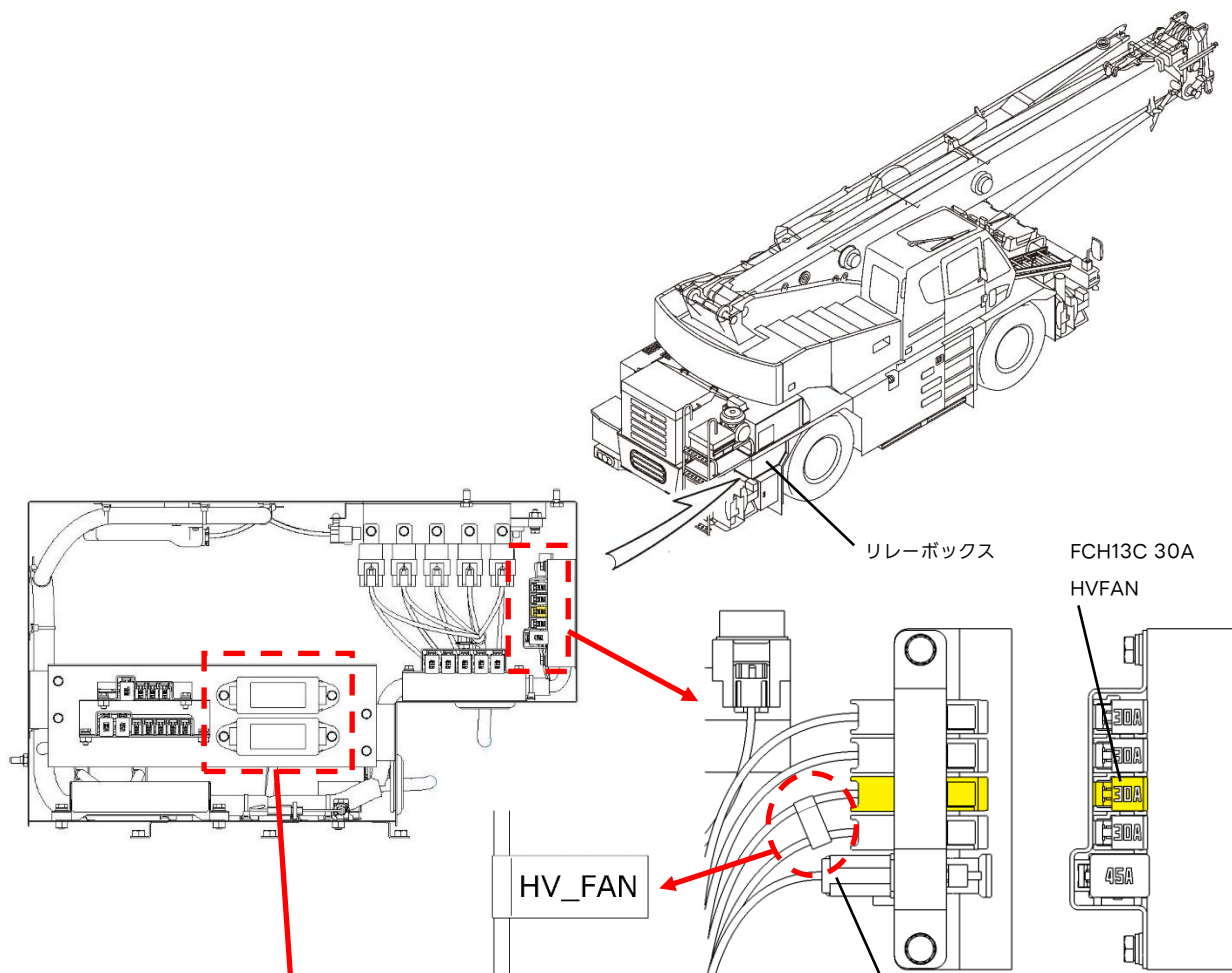
2. 補機用バッテリーのアースケーブルを取り外す (11ページ参照)。

手段 3

(エンジンストップ非常スイッチ（キャリア）が左右どちらも操作できない場合)

1. キャリヤ右後方のリレーボックス内にあるヒューズ7点をヒューズプラー（抜き工具）用いて取り外す。

※ 該当のヒューズが確認できない場合は、リレーボックス内のヒューズをすべて取り外す。



※ヒューズを抜く前に
コネクターに付いて
いるタグが[HV FAN]
であることを確認する

37A-72404A00			
(R1) HVラジエータファン	(F4) 5A HVインバータ	(F8) 15A NOXセンサ	(R2) HVウォータポンプ
	(F3) 5A 24Vコンバータ	(F7) 15A 尿素SCR	
(R3) ECUメイン	(F2) 5A HV ECU	(F6) 5A エンジンスタート	(R4) HVインバータ
	(F1) 5A ECU バッテリ	(F5) 5A HVインバータリレー	

[ヒューズボックス外]

HVFAN 30A

[ヒューズボックス 上側]

HV ECU 5A
24Vコンバータ 5A
HVインバータ 5A
HVインバータリレー 5A
エンジンスタート 5A

[ヒューズボックス 下側]

キーON 5A

37A-72405A00			
(R1) E/Gアクチュエータ	(F4) 5A 排出ガス浄化SW	(F8) 15A HV拡張I/O	(R2) 排出ガス浄化SW
	(F3) 10A 尿素SCR DCU	(F7) 5A イグニッション	
(R3) HVバッテリー	(F2) 20A E/Gアクチュエータ	(F6) 5A キーON	(R4) NOXセンサ
	(F1) 20A 12V コンバータ	(F5) 5A E/G ECU	

2. 補機用バッテリーのアースケーブルを取り外す（11ページ参照）。

手段4

(エンジンストップ非常スイッチ（キャリヤ）の操作もヒューズの
取り外しもどちらもできない場合)

※絶縁手袋必須

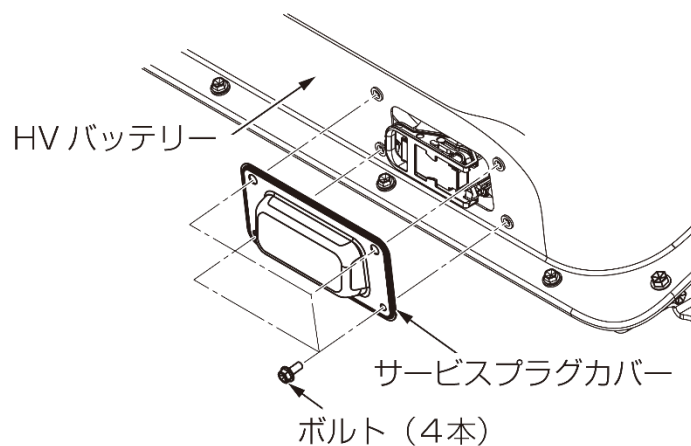


危険

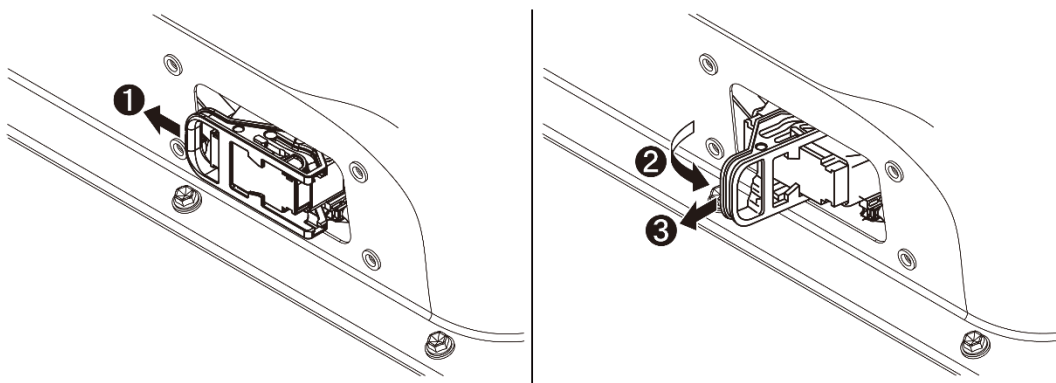
■ 重度の火傷や感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐため、絶縁手袋を装着せずにこの作業を行わないでください。

1. HVバッテリー本体にあるサービスプラグカバー（3ヶ所）を取り外す。
2. 絶縁手袋を着用し、サービスプラグ（3ヶ所）を取り外す。
 - ① サービスプラグのレバーを左にずらす。
 - ② サービスプラグのレバーを手前に倒す。
 - ③ サービスプラグを手前に引き抜く。
3. 補機用バッテリーのアースケーブルを取り外す（11ページ参照）。
4. コンデンサーが放電するまで約10分待ってレスキューを始める。

点検蓋の取り外し



サービスプラグ取り外し



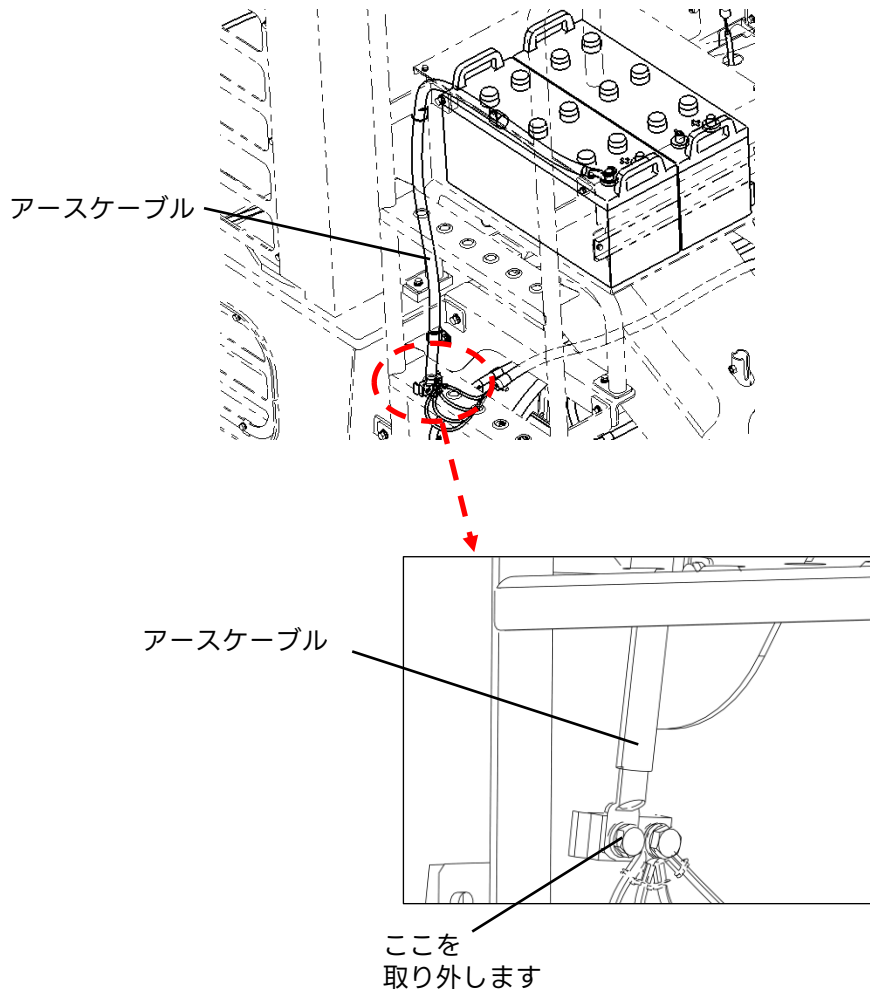
■ 補機用バッテリー（24V）の外し方

機体右側後方の補機用バッテリー（24V）のアースケーブルを取り外します。



危険

- 補機用バッテリーのアースケーブルを必ず取り外してください。取り外さないと、ハイブリッドシステムが再起動し、火災が発生するおそれがあります。



感電防止の為、外したアースケーブルの端子には絶縁テープを貼ってください。

5. 乗員の救出

■ 機体の安定

高電圧遮断作業前に行った機体の安定が維持されていることを確認します。
維持されていない場合には再度4・5ページの固定作業を実施します。

■ 乗員へのアクセス

⇒ガラスの破碎

外からドアが開けられない場合には、ガラスを割って救出してください。

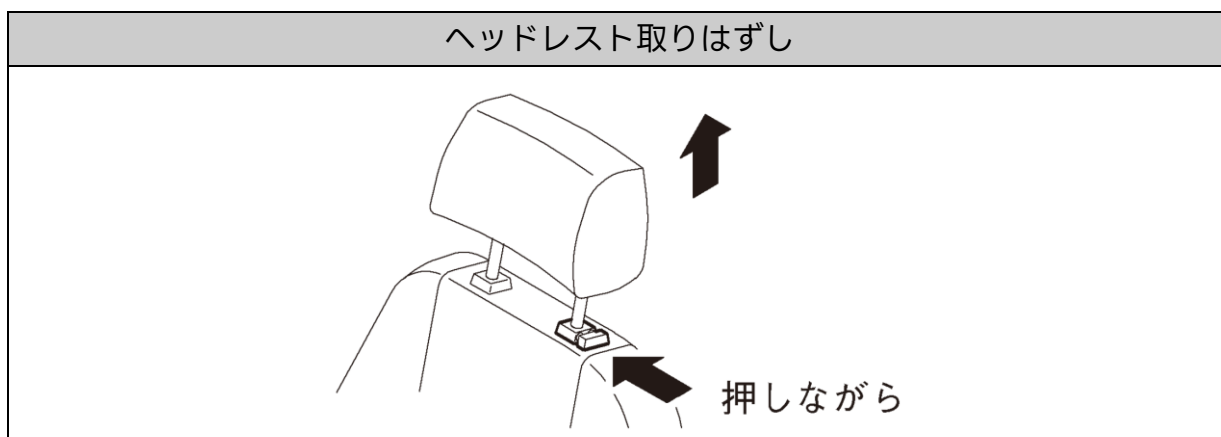
⇒ハンドルおよびシートの位置調整

シートおよびハンドルは図に示すように作動します。

ハンドル調整（高さ・角度）	シート調整（背もたれの傾き）
シート調整（座面の前後高さ）	シート調整（前後位置）

⇒ヘッドレストの取り外し

ツマミを押しながら上に引き抜きます。



⇒機体切断時の注意事項

危険

- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧部品に触れないでください。
- やむを得ず触れる場合または触れる恐れのあるときは、必ず絶縁手袋を着用してください。
- 火花による引火等により救援者・乗員に重大な傷害をおよぼす恐れがあるため、油圧カッターなど火花が飛ばない機器を使用して車両を切断してください。

乗員救助のために機体を切断する場合は、以下の点に注意が必要です。

- ・切断機器でハイブリッドシステム高電圧ケーブルの切断によるショート

切断作業を行う場合は、ハイブリッド高電圧部品に注意して切断作業を実施してください。

- ・ハイブリッド高電圧部品の配置は3ページ参照

6. 火災への対応

■ 消火剤

消火器（油火災：ガソリン、石油、油などによる火災、および電気火災：電気配線、電気機器などによる火災に有効な消火器）で消火してください。

■ 初期消火活動

少量の水による消火はかえって危険な場合があるため、水を掛ける場合は消火栓などから大量に放水するか、消防隊の到着を待ってください。

7. 水没時の対応

ハイブリッド車両が水没した場合、車体には高電圧がかかっている可能性はなく、感電の心配はありません。

■ 乗員へのアクセス

前述の手順（4ページ参照）に従い、ハイブリッドシステムを停止させてから救援作業を行ってください。

8. 液漏れへの対応

本機にて使用されている冷却水は、HVバッテリーで使用されているニッケル水素バッテリーモジュール電解液を除いて、ハイブリッド機種以外のラフターで使用されている一般的な冷却水と同様です。通常のラフターと同様の処置を行ってください。

ニッケル水素バッテリーモジュール電解液は、強アルカリ性（pH13.5）の水酸化カリウム水溶液で、人体に有害です。やむを得ず触れる場合には保護具を着用してください。

通常、電解液は不織布に染み込ませてあるため、万一ニッケル水素バッテリーモジュールが破損しても多量に流出する恐れはありませんが、電解液の可能性がある液漏れがあった場合には下記の処置を行ってください。

■ 保護具の着用

保護メガネ（眼球保護用メガネ）

ゴム手袋（強アルカリ性電解液処理時に使用できる手袋）

耐アルカリ性・耐酸性のエプロン

安全靴

■ 電解液の可能性が有る液漏れへの処置

上記保護具を着用の上、赤色リトマス試験紙を漏れた液につけ、青色に変色した場合、変色しなくなるまで飽和ほう酸水で中和後、ウエス等で拭き取ってください。

- ・ 赤色リトマス試験紙、ほう酸粉末は薬局等で購入してください。
- ・ 飽和ほう酸水は粉末のほう酸800gを20リットルの水に溶かして作ってください。

（余剰ほう酸水は、多量の水で希釈して廃棄するなど適正処理してください。）

これらの作業は屋外では風上側から、屋内の場合は換気が充分な場所で行ってください。

注意

もし電解液に触れた場合は、以下のガイドラインに従ってください。

■ 電解液が付着した場合

- ・ 電解液が直接皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水と石鹸で洗い流してください。
- ・ 万一、電解液が目に入った場合は、大声で救援を求め、目をこすらずに直ちに大量の水で15分以上洗い流し、専門医の診断を受けてください。

■ 電解液を誤飲した場合

- ・ 無理に吐かせないでください。
- ・ 負傷者に大量の水を飲ませて電解液を薄めてください。
- ・ 意識を失っている場合は水を飲ませないでください。
- ・ 自発的に嘔吐が起こった場合は、負傷者が窒息しないようにしてください。
- ・ 負傷者を最寄りの救急医療機関へ移送してください。

■ 電解液の蒸気を吸い込んだ場合

- ・ 負傷者を安全な場所に運び、酸素を吸入させてください。
- ・ 負傷者を最寄りの救急医療機関へ移送してください。

5. 事故機の運搬要領

⚠ 危険

- 車両運搬時には、必ず絶縁手袋を着用して事故車のサービスプラグを抜いてから運搬を行ってください。（10ページ参照）
- 重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡といった事態を防ぐために、三相ケーブル以外のオレンジ色高電圧ケーブルや高電圧部品に触れないでください。

⚠ 警告

- 法規にのっとって充分注意しながらけん引を行ってください。
- けん引は15 km/h以下の低速度による走行を心掛け慎重に行ってください。

1. けん引による移動

けん引時に発電状態にならない様、高電圧ケーブル（三相ケーブル）を取り外してからけん引を実施してください。

■ 事故が起きた場所でけん引するまでの全ての作業が行える場合

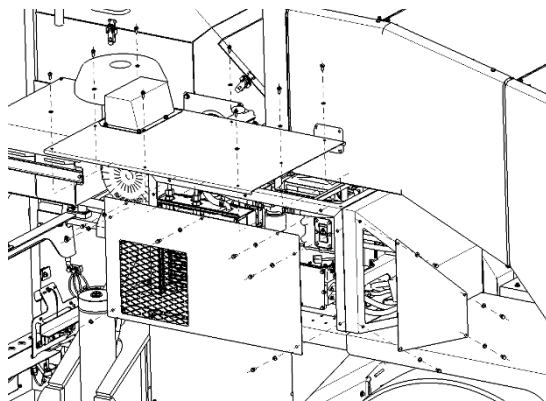
1. 高電圧ケーブル（三相ケーブル）の取り外しを実施する。

⚠ 危険

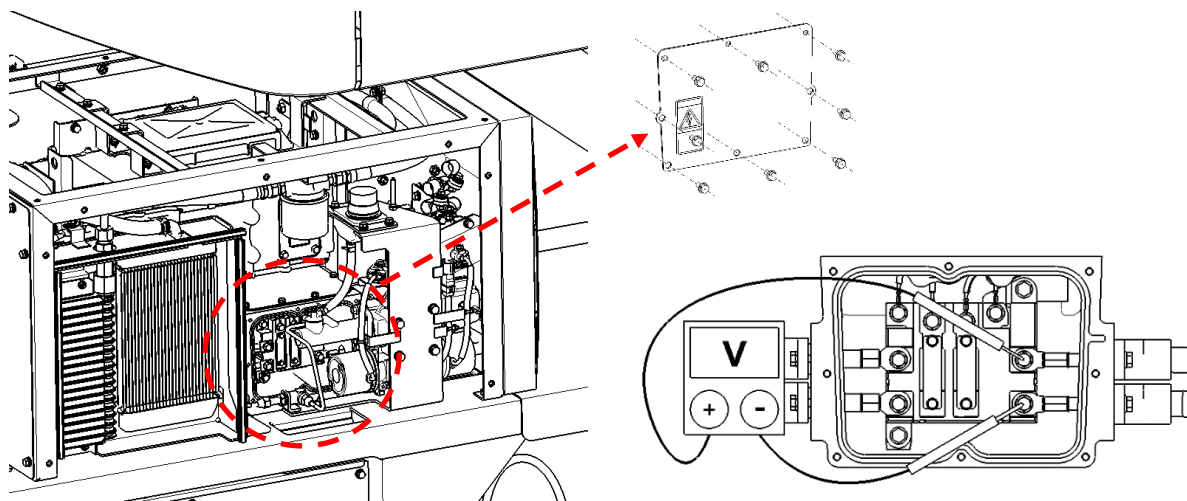
- 必ず絶縁手袋を着用の上、絶縁工具を使って取り外し作業を行ってください。

<取り外し手順詳細>

- ①キーOFF、補機用バッテリーのアースケーブルの取り外しを確認する。
- ②HVシステム関連のヒューズ及びサービスプラグ両方の取り外しを確認する。
外れてないものがあれば、すぐに取り外す。（9、10ページ参照）
（新たに取り外すものがあった場合、外してから10分以上経過するのを待つ）
- ③HVユニットのカバー（上方、車体側面、前方）を取り外す。

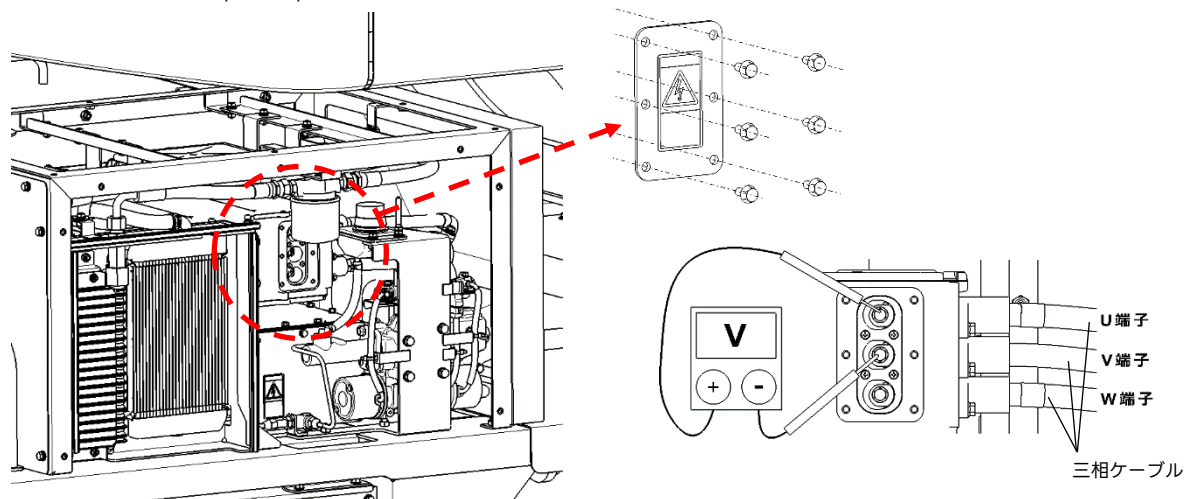


④コンバータの端子台カバーを取り外し、テスターで電圧を測定しゼロであることを確認する。



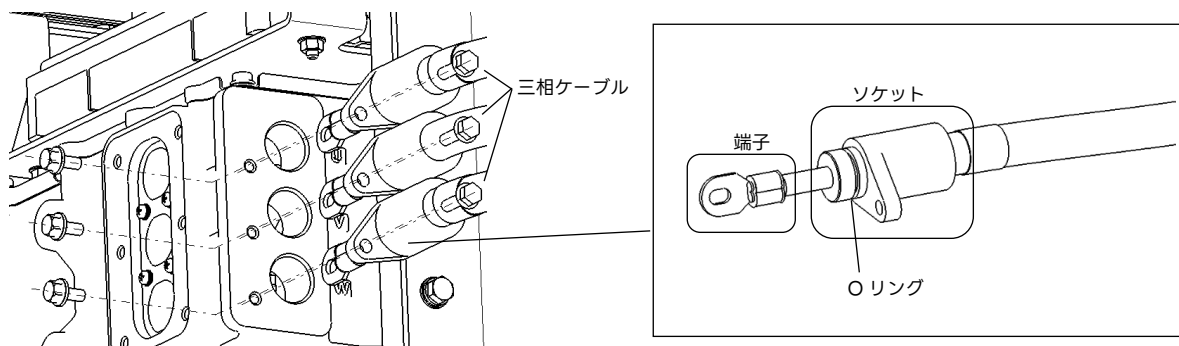
⑤確認後、カバーとガスケットを再度取り付ける。

⑥三相ケーブル端子部のカバーを取り外し、テスターで電圧を測定し、各端子間（U-V,V-W,W-U）の電圧がゼロであることを確認する。



⑦ソケット固定ボルトと端子固定ボルトを取り外して三相ケーブルを取り外す。

- ・ソケットにOリングがはまっているので紛失しないようにする。
- ・インバータ側の穴はテープ等を貼り付けて塞ぐ。



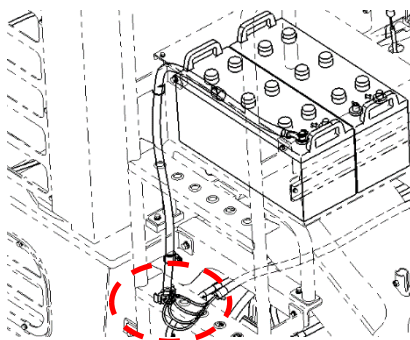
⑧⑥で取り外した三相ケーブル端子部のカバーとガスケットを再度取り付ける。

⑨各ケーブル端子に感電対策のため絶縁材（ビニールテープ等）を巻く。

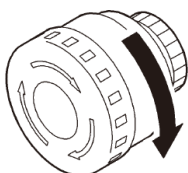
⑩ソケットにも絶縁材を巻く。

- ⑪ 取り外したケーブルがシャシフレームと接触しないよう固定する。
またケーブル端子同士も接触しないようにする。

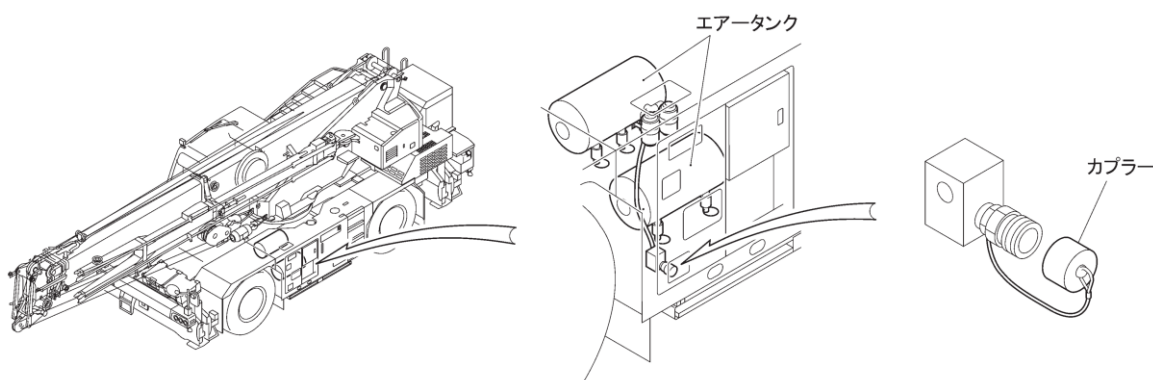
2. 前述のハイブリッドシステム停止時に外した補機用バッテリーのアースケーブル
(11ページ参照) を再び取り付ける。



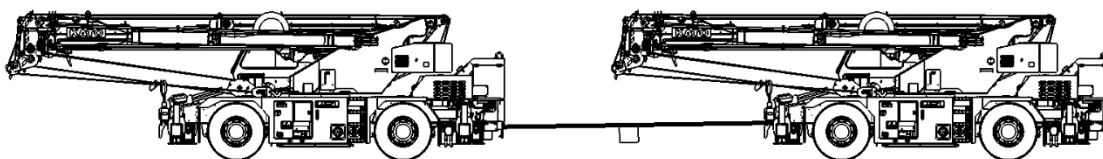
3. ハイブリッドシステム停止時にエンジンストップ非常スイッチを使用していた場合、
実際に押した箇所のスイッチを右に回してロックを解除する。



4. パーキングブレーキが解除できるようにけん引車のエアータンクと事故機のエアータンクを
ホースでつなぐ。
(事故機にはエアータンクの下方面にあるカプラーから高圧空気を供給する。)

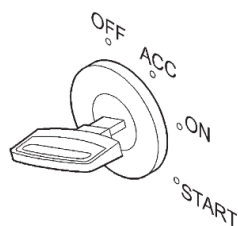


5. けん引車との間隔を充分に取り、機体を "けん引棒" または強度の充分な "ワイヤロープ"
などでつなぎ中間に30cm四方以上の白い布をつける。



6. 故障車の前後に赤い旗などを取り付け、けん引中であることを他の車両に知らせる。
7. 先導車と後方確認車を配置する。
8. 輪止めを外す。

9. スタータースイッチを「ON」の位置に回す。



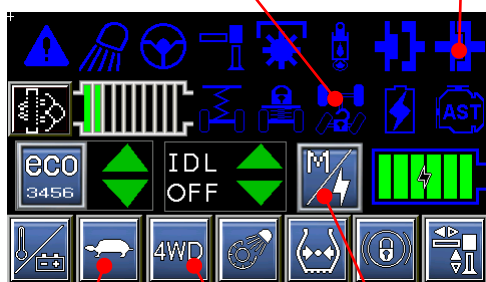
10. シフトセクターを「N」ポジションにする。

11. インフォメーションディスプレイのクラッチ接続状態ランプが点灯していることを確認する。
点灯していない場合は、パーキングブレーキを作動させた後にハイブリッド操作画面切替スイッチを押して画面を切り替え、クラッチリセットスイッチを押す。

リヤステロック解除確認

インジケータランプ

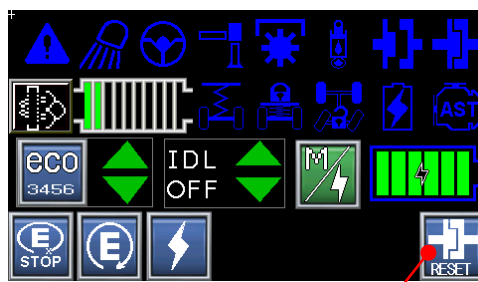
クラッチ接続状態ランプ



ハイ・ロー切替スイッチ

ハイブリッド操作画面切替スイッチ

2-4輪駆動切替スイッチ



クラッチリセットスイッチ

12. 2-4輪駆動切替スイッチの青色点灯（2輪駆動状態）、ハイ・ロー切替スイッチの青色点灯（ハイレンジ状態）を確認する。

13. リヤステロック解除確認インジケータランプの消灯を確認する。

14. パーキングブレーキを解除する。

15. けん引開始。

■ 事故が起きた場所から速やかに事故機を撤収しなければいけない場合

一旦事故機を場所移動してから、高電圧ケーブル（三相ケーブル）取り外し作業を実施してください。

1. キーOFF、補機用バッテリーのアースケーブルの取り外しを確認する。
2. HVシステム関連のヒューズ及びサービスプラグ両方の取り外しを確認する。
外れてないものがあれば、すぐに取り外す。（9、10ページ参照）
（新たに取り外すものがあつた場合、外してから10分以上経過するのを待つ）
3. 事故機に対して「事故が起きた場所でけん引するまでの全ての作業が行える場合」の2～14の作業を実施する。
4. 事故現場から1km以内で取り外し作業等が可能な場所にけん引で移動する。
（15km/h以下で実施）
5. 移動したらパーキングブレーキを入れ、輪止めをする。
6. スタータースイッチを「OFF」の位置に回す。
7. 補機用バッテリーのアースケーブルを再び外す。
8. 高電圧ケーブル（三相ケーブル）の取り外しを実施する。
（手順詳細については「事故が起きた場所でけん引するまでの全ての作業が行える場合」の1を参照 [16ページ]）
9. 補機用バッテリーのアースケーブルを再び取り付ける。
10. 先導車と後方確認車を配置する。
11. 輪止めを外す。
12. スタータースイッチを「ON」の位置に回す。
13. シフトセレクトを「N」ポジションにする。
14. パーキングブレーキを解除する。
15. けん引開始。

注意

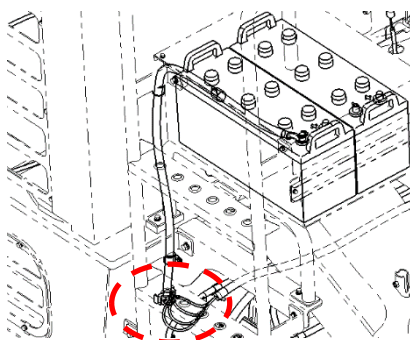
- 事故車に対して高圧空気の供給を行わないとパーキングブレーキが解除できません。また、けん引走行中のサービスブレーキも効かなくなります。
"ローエアー警報ランプ" が消灯しつづける程度まで高圧空気を供給してください。
- 供給用ホースがタイヤなどに巻き込まれたり、地面との接触がないよう充分注意してください。
- レスキュー作業実施後の機体はコンバータから補機用バッテリーへの電気が供給されなくなりますので、バッテリー電圧に十分に注意してください。
- 補機用バッテリーの電圧が下がるとパーキングブレーキが解除されません。けん引時、電圧低下を知らせる警報音が鳴った場合は、パーキングブレーキがかかってしまうのでただちにけん引を中止してください。

2. けん引専用車（レッカー車）による移動

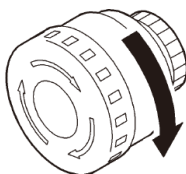
けん引を前輪接地で行う場合と後輪接地で行う場合で作業内容が変わります。

■ 後輪接地でけん引する場合

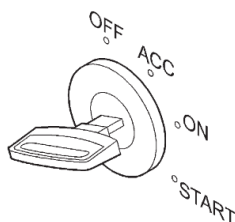
1. トランスミッションとリアアクスルの間にあるプロペラシャフトを取り外す。
2. リヤステロック解除確認インジケータランプの消灯を確認する。
3. キーOFF、補機用バッテリーのアースケーブルの取り外しを確認する。
4. HVシステム関連のヒューズ及びサービスプラグ両方の取り外しを確認する。
外れてないものがあれば、すぐに取り外す。（9、10ページ参照）
（新たに取り外すものがあった場合、外してから10分以上経過するのを待つ）
5. 前述のハイブリッドシステム停止時に外した補機用バッテリーのアースケーブル（11ページ参照）を再び取り付ける。



6. ハイブリッドシステム停止時にエンジンストップ非常スイッチを使用していた場合、実際に押した箇所のスイッチを右に回してロックを解除する。



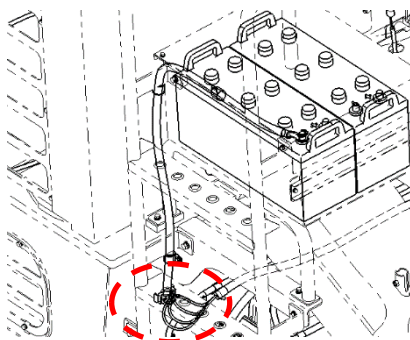
7. 輪止めを外し、けん引専用車（レッカー車）に事故機の前輪を固定する。
8. スタータースイッチを「ON」の位置に回す。



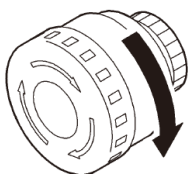
9. シフトセレクトターを「N」ポジションにする。
10. けん引開始。（15km/h以下で移動）

■ 前輪接地でけん引する場合

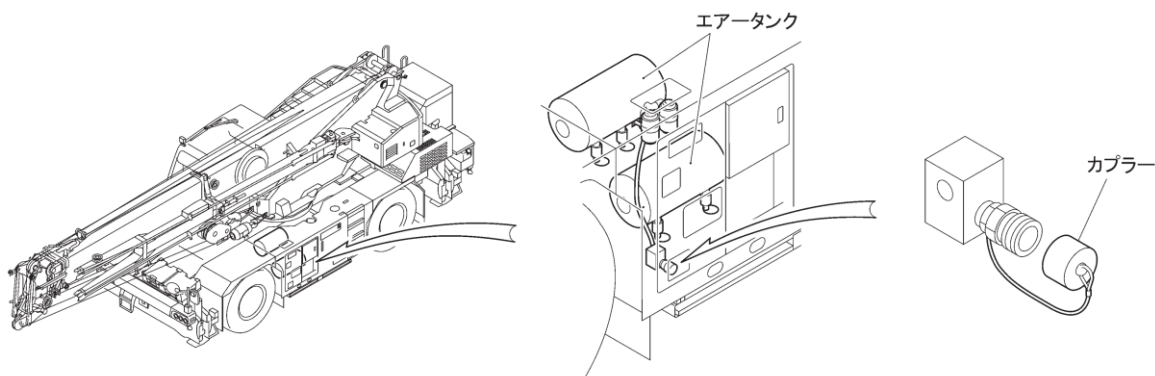
1. トランスミッションとフロントアクスルの間にあるプロペラシャフトを取り外す。
2. キーOFF、補機用バッテリーのアースケーブルの取り外しを確認する。
3. HVシステム関連のヒューズ及びサービスプラグ両方の取り外しを確認する。
外れてないものがあれば、すぐに取り外す。(9、10ページ参照)
(新たに取り外すものがあつた場合、外してから10分以上経過するのを待つ)
4. 前述のハイブリッドシステム停止時に外した補機用バッテリーのアースケーブル
(11ページ参照) を再び取り付ける。



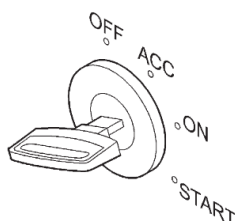
5. ハイブリッドシステム停止時にエンジントップ非常スイッチを使用していた場合、
実際に押した箇所のスイッチを右に回してロックを解除する。



6. パーキングブレーキが解除できるようにけん引専用車（レッカー車）のエアータンクと
事故機のエアータンクをホースでつなぐ。
(事故機にはエアータンクの下方面にあるカップラーから高圧空気を供給する。)



7. 輪止めを外し、けん引専用車（レッカー車）に事故機の後輪を固定する。
8. スタータースイッチを「ON」の位置に回す。



9. シフトセレクトターを「N」ポジションにする。

10. パーキングブレーキを解除する。
11. けん引開始。(15km/h以下で移動)

 注意

- 事故車に対して高圧空気の供給を行わないとパーキングブレーキが解除できません。
"ローエアー警報ランプ" が消灯しつづける程度まで高圧空気を供給してください。
- 供給用ホースがタイヤなどに巻き込まれたり、地面との接触がないよう充分注意してください。
- レスキュー作業実施後の機体はコンバータから補機用バッテリーへの電気が供給されなくなりますので、バッテリー電圧に十分に注意してください。
- 補機用バッテリーの電圧が下がるとパーキングブレーキが解除されません。けん引時、電圧低下を知らせる警報音が鳴った場合は、パーキングブレーキがかかってしまうのでただちにけん引を中止してください。

SR-250HV 走行姿勢時主要諸元

全長	: 11,660mm
全幅	: 2,620mm
ホイールベース	: 3,900mm
車両総重量	: 26,395kg

6. 機体運搬時の注意

事故機を運搬する際は、次の点に注意してください。

- ・ けん引専用車、もしくはけん引車を取り扱う作業者の指示に従ってください。

高電圧作業中
触るな！

高電圧作業中
触るな！

担当

コピーを取り、折って作業中に車両の見やすい位置に標示する。

加藤製作所 ハイブリッドラフター
レスキュー時の取り扱い

編集・発行

株式会社 加藤製作所

2025 年 7 月 初版発行
